多彩な魅力　佐渡島　世界遺産国内推薦に向けて

佐渡を訪れると、能舞台の多さに気づく。順徳上皇、世阿弥、日蓮…。その昔、貴人・知識人たちが佐渡に配流となったが、それが佐渡に多様な文化や芸能をもたらせた。今でも島内のあちこちで薪能や鬼太鼓（おんでこ）が開催される。先人たちが築いた文化を、島民の皆さんがしっかりと受け継いでいる。

江戸時代には幕府の直轄地となり、佐渡金山の採掘のため、江戸などから人夫が集められた。露頭掘りで山が真っ二つになっている「道遊の割戸」を見るたびに、人間の力や欲、幕府の権力の大きさなど、いろいろな思いが頭の中を駆け巡る。

歴史ばかりではない。特別天然記念物のトキの生息地として全国に知られているが、佐渡沖ではマグロも獲れるし、国内のミカン栽培の北限であるなど、意外な顔もあわせ持つのが佐渡島だ。最近では１周200km以上を自転車で駆け抜ける自転車レースも人気を集めているほか、多彩な魅力を持つ佐渡にひかれ、新潟に縁もゆかりもない若者が、島に移住したり、起業するケースも増えてきている。

そんな佐渡島は「佐渡島の金山」として、世界文化遺産登録を目指している。2010年に国内推薦暫定リストに記載されたが、その後４回も選に漏れた。関係者はあきらめることなく原案の改善に努め、この秋に開かれている国の文化審議会部会での推薦獲得を目指している。国内の他地域で今年度の獲得を目指す動きがないため、今回は佐渡が有力視されており、新潟県民をあげて「今度こそ」の思いが募る。

しかしながら、佐渡と新潟市を結ぶ佐渡汽船が財務難のためフェリー１隻をこのほど売却したほか、空港も滑走路が1000mに満たず、限られた小型機しか離発着できないなど、交通インフラに課題が多い。島内の移動もバスかレンタカーに限られ、観光客には厳しい状況。国内推薦をステップに、さらなる改善に期待したい。

新潟日報社東京支社 業務部次長 渡辺 健

熊野神社＝佐渡の郷土芸能、鬼太鼓は地域の小さな神社に奉納される＝新潟県佐渡市新穂青木の熊野神社

道遊の割戸＝佐渡金銀山のシンボルともいえる「道遊の割戸」＝新潟県佐渡市相川銀山町